メッセージ　3

二人の女のたとえ

聖書：創 16:1—17:14．ガラテヤ 4:21-31

Ⅰ．サラとハガルは、アブラハムの妻とめかけであり、二つの契約（約束の契約と律法の契約）のたとえです——創 16:1-3．**ガラテヤ** 4:24：

A．自由の女であるサラは、約束の契約を表徴します。約束の契約は、新約、すなわち恵みの契約と関係があります——23-24 節．創 12:7．15:7-21：

1．その契約の中で、神はアブラハムに子孫を与えることを約束し、神はアブラハムがそれを得るために何かをする必要があるという意図を少しも持っていませんでした。神は何かをアブラハムの中へと造り込み、アブラハムが子孫を生み出して、神の定められた御旨を完成するようにしました。これは恵みです——4 節。

2．サラは自由の女であり、アブラハムの正式な妻であって、この恵みの契約の象徴です。彼女は神の恵みによってイサクを生み出しました。

3．恵みの約束の産物はイサクであり、彼は神の定められた御旨を完成する子孫です——17:19．21:12 後半。

B．女奴隷であるハガルは、律法の契約を表徴します——ガラテヤ 4:24-25：

1．ハガルはアブラハムのめかけであり、律法の象徴です。この事から、わたしたちは律法の地位がめかけの地位であることを見ることができます——創 16:1-3。

2．ハガルによって象徴される律法の契約は、神の選びの民を律法の奴隷の身分の下に、律法の拘束の下にもたらし、彼らを律法の下の奴隷とし、神の恵みから離します——ガラテヤ 4:25．5:1，4。

3．アブラハムがハガルを通してイシマエルを生んだことは、人が肉の努力によって、律法と組み合わされて、神の定められた御旨を完成しようとする人の試みを象徴します——創 16:4，15-16．ガラテヤ 2:16．4:23 前半。

4．アブラハムは、神の恵みによってではなく自分の肉の努力によって、ハガルを通してイシマエルを生み出しました。ですから、イシマエルは、律法にしたがった人の肉の努力の結果であり、神によって拒絶されました——創 17:18-19．21:10．ガラテヤ 4:30。

C．約束は、創世記第 12 章 2 節、7 節、第 13 章 15 節から 17 節、第 15 章 4 節から 5 節で与えられました。契約は、第 15 章 7 節から 21 節で結ばれました：

1．神の意図にしたがって、約束の契約はまず律法の契約の前に来ました。神は律法をもたらす意図もなく、人にそれを守るよう努力させて神の定められた御旨を完成させる意図もありませんでした。

2．神が当初行なおうと意図したことは、彼ご自身を人の中へと造り込んで、人を通して神の定められた御旨を完成することでした——4 節。

D．創世記第 15 章 7 節から 21 節で神がアブラハムと結んだ契約は、創世記第 17 章 1 節から 14 節で割礼をもって確証されました：

1．1 節で、神はアブラハムにご自身をすべてに十分な神として啓示しました。神はすべてに十分な大能者として、恵みの源であって、神の神聖な存在の豊富を彼の召された人たちに供給します。それは、彼らがキリストを子孫として生み出して、

神の定められた御旨を完成するためです。

２．創世記第 16 章で、アブラハムは自分の肉を活用して、イシマエルを生みました。創世記第 17 章で、神はアブラハムに彼の肉を切り取るように、すなわち彼の天然の力を終わらせるように命じました。それは、神が入って来て、神の恵みによってイサクを生み出すことができるためでした。

３．割礼の霊的意義は、キリストの十字架を通して、肉を脱ぎ捨てること、自己と古い人を脱ぎ捨てることです――コロサイ 2:11，13 前半．ピリピ 3:3：

ａ．霊的割礼は、キリストの死を絶えずわたしたちの肉に適用することです――ガラテヤ 5:24．ローマ 8:13。

ｂ．割礼は、自分で神のみこころを行なおうとして神の約束を成就しようとする肉を対処します。割礼の意義は、肉の自信を切り取ることです――ピリピ 3:3。

４．割礼をもって契約を確証することは、神の定められた御旨を完成する子孫と地と関係があります――創 17:2-8：

ａ．人が神を表現し代行するという神の永遠の定められた御旨を完成するために、わたしたちはキリストをわたしたちの子孫として、またわたしたちの地として持つ必要があり、このためにわたしたちは割礼され、十字架につけられた生活をする必要があります――ガラテヤ 5:24．6:14。

ｂ．肉、自己、古い人が終結させられたとき、門が開かれ、神が入って来てイサクを生み出します――創 18:10，14．21:1-3。

Ⅱ．わたしたちは創世記のアブラハムの経験の光の中で、ガラテヤ第 4 章 21 節から 31 節を考察する必要があります：

Ａ．パウロがガラテヤ第 4 章 21 節から 31 節でわたしたちに告げていることは、ハガルが律法を表徴し、律法が地のエルサレムによって象徴されているということと、サラが恵みを表徴し、恵みが天のエルサレムによって象徴されているということです――ガラテヤ 4:25-26。

Ｂ．ハガルとサラは二つの契約を、すなわち、律法の契約と恵みの契約を表しています。律法は人の労苦に人の能力が加えられて何かを生み出す事柄ですが、恵みは神が彼の選びの民に与えられて多くの子たちを生み出すことです――3:26．4:6。

Ｃ．神がアブラハムと結んだ当初の契約は、恵みの契約でした：

１．この契約には、人の能力や努力の必要はなく、神の恵みが多くの子たちを生み出す必要があります――3:29。

２．この契約は新約と等しいです。これは、神がアブラハムと結んだ契約が実は新約であったことを意味しています――8 節．ヘブル 8:7-8：

ａ．新約は、神がアブラハムと結んだ契約の継続です――創 15:7-21。

ｂ．新約は、神がアブラハムと結んだ恵みの契約の完全な継続であり、この契約は子たちを生み出すためです。この契約によって生み出された子たちの最初の一人は、アブラハム自身でした――ガラテヤ 3:26．4:6．ヘブル 2:10。

Ｄ．二つの契約によって生み出された二種類の子供たちは、性質が異なっています――ガラテヤ 4:24，28-31：

１．律法の契約によって生み出される人たちは、肉によって生まれます。約束の契約によって生み出される人たちは、霊によって生まれます――29 節。

２．肉によって生まれる子供たちは、神が約束した祝福にあずかる権利を持っていませんが、霊によって生まれる子供たちは、完全な権利を持っています――30-31節。

３．わたしたちには恵み、キリスト、命を与える霊があるので、わたしたちは霊による子供たちです――6:18．コロサイ 1:27．Ⅰコリント 15:45 後半：

ａ．この霊は今やわたしたちの霊の中におられ、わたしたちを霊による子供たちとします。これがガラテヤ第 3 章と第 4 章における驚くべき啓示です。

ｂ．わたしたちは霊による子供たちとして、神の願いの実現の中にとどまり、恵み、キリスト、すべてを含む霊を福音の祝福として享受すべきです――3:14。

Ｅ．ガラテヤ第 4 章が啓示しているのは、信者たちの母が、上なるエルサレム、新エルサレムであり、サラによって象徴されている恵みの新契約であるということです――26 節：

１．新エルサレム、天のエルサレム、上なるエルサレムは、わたしたちの母であり、この母は恵みの新契約です――ヘブル 8:7-13．12:22-23：

ａ．新契約はわたしたちの母です。なぜなら、それはわたしたちを自由の子供たちとして生んだからです――ガラテヤ 4:31。

ｂ．わたしたちは新契約の下に生まれました。そして、上なるエルサレムはわたしたちの母です――26 節。

ｃ．この女は、新契約であり、またわたしたちの母です。そしてわたしたちの母は神の恵みです。

２．御父は恵みを与える方です。恵みは契約です。契約は都、上なるエルサレム、新エルサレムであり、わたしたちの母です。母が生んだ子たちは、母の構成要素です。そして、母は御父へと戻って、御父と一になります。すなわち、御父から出て来て、そして目的地としての御父へと戻るのです――1:3．Ⅰコリント 8:6。

３．新契約を受けることと守ることは、天のエルサレムに来ること、また召会に来ることです。新契約、天のエルサレム、召会は一です――ヘブル 8:7-13．12:22-23。

４．信者たちの母は、アブラハムが待ち望んでいた都です――11:10：

ａ．ヘブル第 12 章 22 節で、この都が何であるかを指し示しています。その節はわたしたちに、わたしたちが天のエルサレムに来ていることを告げています。この天のエルサレムは、キリストの妻また新約の信者たちの母であり、この母は彼女から生まれた神の子たちで構成されています。

ｂ．神がアブラハムを選んだ意図は、神のエコノミーを完成することでした。神のエコノミーは、多くの子たちを生み、恵みによって生み出して、新エルサレムを構成することです。新エルサレムは、神の究極で永遠の団体的な表現です――啓 21:1-2，7。

©2026 Living Stream Ministry